

ときめき人

Tokimeki bito



人の縁を 丸い円で結ぶ 地域活性化の 仕掛け人

迫町・鉄炮丁

志田 敏典さん

しだ としのり
1987年生まれ

Profile

新潟県上越市出身。紳士服専門店での勤務を経て、地域おこし協力隊に着任。現在は、まちづくり企業「縁屋」を中心に、さまざまな地域活性化事業を展開する。妻と1女2男の家族5人暮らし。



3回目となる「とめまる2025」は、5月24日開催。ぜひお越しください。詳しくはWebで [とめまる2025](#)

「誰もが自分のやりたいことを実現できる環境をつくり、子どもたちに“カッコいい大人の背中”を見せたいんです」と志田さんは笑顔で語る。

新潟出身の志田さんは、サラリーマン時代に本市を訪れた際、地域おこし協力隊OBとの出会いをきっかけに協力隊へ応募。2021年9月から3年間、市の観光振興業務に携わってきた。

コロナ禍で多くの催しが中止となる中、地域に活気を取り戻そうと、キャンドルイベント「燈火」や県北最大級のマルシェ「とめまる」を企画。未経験ながら、がむしゃらにイベントを運営する中で、中高生によるチャレンジ企画の成功や、来場した子どもたちの喜ぶ姿を目の当たりにし、人の思いに寄り添ったイベントの重要性と、子どもたちが

やりたいことに挑戦できる環境の大切さを痛感した。この経験を機に、地域の熱意ある人々をつなぎ、夢の実現を応援すること、そして挑戦する大人の姿を次世代の若者たちに示し、地域活性化の循環を生み出すことをモットーに掲げ、多様なまちづくり事業に取り組み始めた。

登米で活動する理由は、登米の人にあると志田さんは言う。「僕が来る前から地域のために全力で頑張ってきた人たちが、僕を仲間として受け入れ、応援してくれた。だから、もらった恩を地域に返す『恩送り』がしたいんです」と目を輝かせる。

今後は、廃校を活用した地域活性化にも取り組む予定だ。つながる縁が新たなワクワクを生むと信じ、今日も志田さんは誰かの夢の実現に奔走する。

編集後記

▼祝・市制施行20周年。渡邊は今号をもって広報広聴係から他部署へ異動となりました。3年間、ありがとうございました。さようなら。(渡邊)

▼4月から広報広聴係に異動してきました。取材で多くの皆さんに会えるのが楽しみです。初めての一眼レフカメラで、ぎこちない姿ですが、カメラを向けたら笑顔になってもらえるように頑張ります。(森田)

▼日が長くなり、気付けばもう4月。今年度も、親しみやすく楽しい広報紙を皆さんにお届けできるよう、学んだ技術を生かして頑張ります。いまだにピンボケ気味の写真を撮ってしまうこともあるので、そこはしっかり注意しなすや。(添田)

▼この春にご卒業、ご入学した皆さんおめでとうございます。私は、息子の高校の卒業式で祝辞を述べることができました。なんとか平静を装いましたが、内心は不安と緊張で汗だくでも、会場ではいちばん不安だったのは息子だったかも。(高橋)



登米市公式ホームページ
<https://www.city.tome.miyagi.jp/>



登米市メール配信サービス
(防犯や防災、市政に関する情報などを配信)
<https://plus.sugumail.com/usr/tome/home>



登米市公式 LINE
(市政、イベント情報などを配信)
<https://line.me/R/ti/p/%40972tqqam>